

編集後記

「小膵癌診断への挑戦」というような気負ったタイトルでの特集は今迄なされたことはなかったし、今後も恐らくはないであろう。このようなタイトルの特集で果たして、最も困難な問題—膵癌の早期診断—にどのように肉迫しうるか、編集にたずさわったものにとって、みのりあるものが得られるかどうか、本当に心配であった。世界においても、とりあげられたことがないことであって、この特集をみて戴ければ、編集者の心配が杞憂に終わったことに納得されることと思う。数多い進行膵癌の中での小膵癌の臨床像、診断過程が一步づつ明かにされているが、小膵癌に対する治療の面からのアプローチが不充分であった点がおしまれる。病理面からの膵癌の進展、小膵癌の組織学的検討は、今迄なされていなかった分野で、診断治療にたずさわる方面に極めて示唆に富んだ内容であろうと思う。

座談会で膵癌の早期診断について充分検討して戴いた。

主題症例として呈示された小膵癌のうち2症例とも、軌を一にして、アミラーゼの上昇が膵癌診断のきっかけになったことは、膵癌のスクリーニングの上で、注目に値し、すぐ、日常の診療にも適用しうるし、その成果をみまもりたい。

研究は注目されている内視鏡的乳頭切開術の成績で、そのすぐれた成績と共に乳頭切開の安全性が更に追求されるべきであろう。

膵癌の早期診断に関して、この特集を踏台にして、一層の発展を期待したい。

<高木 国夫>

<編集> 早期胃癌研究会